

Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (応用編)

シスコシステムズ合同会社 システムズエンジニア 齋藤 達也 2020/07/14

Cisco Modeling Labsを使ってネットワークを学ぼう!

- 2020年7月7日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (基礎編)
 - CML とは何か、ユースケースや基本機能、ラボ構築など、デモを交えながらご紹介します。
- 2020年7月14日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう!(応用編)
 - CMLの様々な活用方法、資格試験での活用方法をデモを交えCCIEホルダーがご紹介します
- 2020年7月28日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (DevNet編)
 - CMLのAPI・プログラマビリティを用いたネットワーク自動化の観点でCMLをご紹介します https://learningnetwork.cisco.com/s/article/jp-webinar-cml03

- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

アジェンダ

自己紹介

- ・氏名
 - ・ 齋藤 達也(さいとう たつや)
- ・人材育成の一環でシスコにインターンシップとして出向(2017/02~2020/06)
- ・出向元
 - ・富士通ネットワークソリューションズ株式会社
- ・ひとこと
 - ・インターンシップ期間中は、ACIやCisco DNA製品の技術を主に勉強しました。
 - ・2019年8月にCCIE Routing & Switchingを取得しました。
 - ・最近嬉しかったことは、Jリーグが再開したことです。



- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

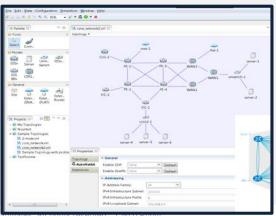
アジェンダ

Cisco Modeling Labs (CML)とは?

5月12日 CML2.0 アップデート!

Ciscoが提供する ネットワークシミュレーションプラットフォーム





CML-Enterprise 2.0CML-Personal 2.0

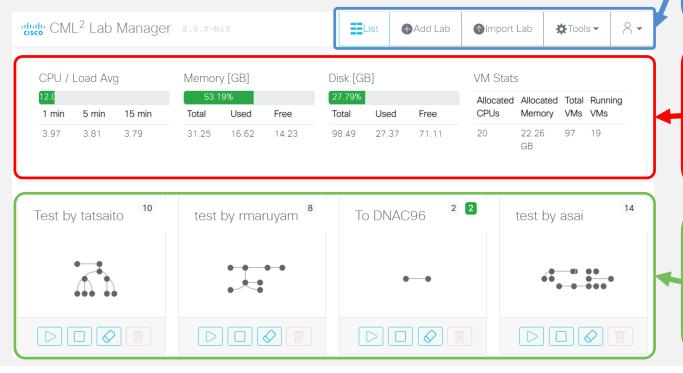


CML上で仮想化されるプラットフォーム



- ※カスタムVMイメージ機能により新規イメージ、サードパーティ製イメージを追加可能
- ※ディスクイメージバージョン: refplat-20200409-fcs.iso
- ※各イメージのバージョン等の情報 https://developer.cisco.com/docs/modeling-labs/#!reference-platforms-and-images

ラボマネージャー



メニューバー

- ・ ラボの表示切替
- ラボ追加
- ラボのインポート
- ツールへのアクセス など

システムステータス

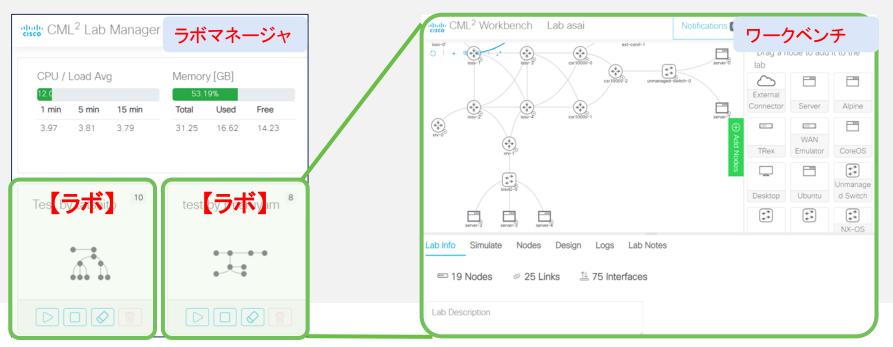
- CPU使用率
- ・ メモリ使用率
- ディスク使用率
- 合計仮想ノード数
- 実行中仮想ノード数など

ラボリスト

- ワークベンチへの移動
- ラボの実行
- ラボの停止
- ・ ラボの初期化
- ラボの削除など

2つの基本画面

- ラボマネージャ: CMLサーバのステータス、ラボを管理するCMLのトップ画面
- ワークベンチ: 作成したラボの編集、ネットワークシミュレーションを行うためのメイン画面 ※ラボ: CMLでは1つのネットワークシミュレーションの単位をラボと呼びます



ワークベンチ



CML-Enterprise ,CML-Personal の比較

	Cisco Modeling Labs-Enterprise	Cisco Modeling Labs-Personal
対象ユーザ	企業・組織	個人
ユーザ数	マルチユーザ	シングルユーザ
ノード数(標準)	20ノード	20ノード
ノード数(最大)	300ノード	20ノード
サポート	Cisco TAC	Community Support Forum
購入方法	Cisco パートナー経由	Cisco Learning Network Store
ライセンシング	スマートライセンス	スマートライセンス
スマートアカウントの取得	必要	不要(Cisco.comアカウントがあればOK)
インターネット接続性	必須ではない ※オフラインでの認証も可 能	<mark>必要</mark> ※1度認証すれば30日間はオフライ ンでも使用可能
クラスタリング	ロードマップに有り	無し

※CML2.0.1 現在の仕様

- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

アジェンダ

CML仮想ノードのご紹介

CML仮想ノード スイッチ編

ノード	ノード名	説明	バージョン
IOSvL2	IOSvL2	エンタープライズ向けL2/L3スイッチクラシックIOS	IOS 15.2
NX-OS	Nexus 7000v	• データセンター向けL2/L3スイッチ	NX OS 7.3.0.d1.1
NX-OS 9000	Nexus 9000v	• データセンター向けL2/L3スイッチ	NX OS 9.2.3
Unmanaged Switch	Unmanaged Switch	・ コンソール機能非搭載のハブ	_

CML仮想ノード ルータ、ファイアウォール編

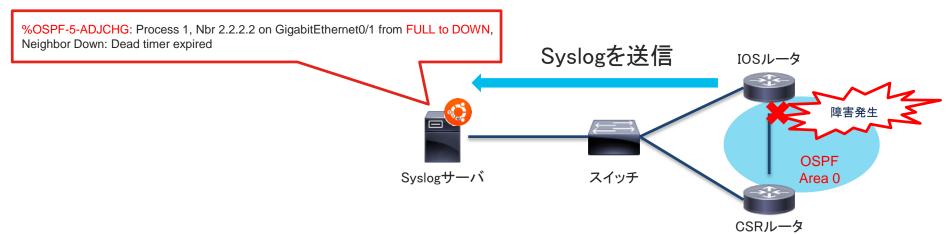
ノード	ノード名	説明	バージョン
IOSV	IOSv	エンタープライズ向けルータクラシックIOS	IOS 15.8(3)
CSR1000v	CSR1000∨	クラウド向けルータ(Cloud Service Router)オープン&プログラマブルなIOS XE搭載	IOS XE 16.11.01b
IOS XRv	IOS XRv	• サービスプロバイダー向けルータ (32bitイメージ)	IOS XR 6.3.1
IOS XRv 9000	IOS XRv 9000	• サービスプロバイダー向けルータ (64bitイメージ)	IOS XR 6.3.1
ASAv	ASAv	ファイアウォールやVPN機能等を搭載した セキュリティ製品	9.12.2

CML仮想ノード サーバ編

ノード	ノード名	説明	バージョン	クレデンシャル
Server	Server	最小限の機能のみ搭載のLinuxコンソール,VNC(CLIのみ)対応	Tiny Core Linux8.2.1	cisco/cisco
Alpine	Alpine Linux	CLI機能のみ搭載の軽量なLinuxコンソール,VNC(CLIのみ)対応パッケージマネージャは"apk"	Alpine Linux 3.10	cisco/cisco
Desktop	Alpine Linux(GUI)	GUI機能を搭載したLinuxコンソール,VNC対応	Alpine Linux 3.10	cisco/cisco
CoreOS	Core OS	コンテナホスト用の軽量なLinuxdockerコマンド搭載	Core OS 2135.4.0	cisco/cisco
Ubuntu	Ubuntu 18.04	フル機能搭載のUbuntuサーバCLIのみ対応パッケージ管理コマンド"apt"搭載	18.04.3 LTS	ubuntu/cisco

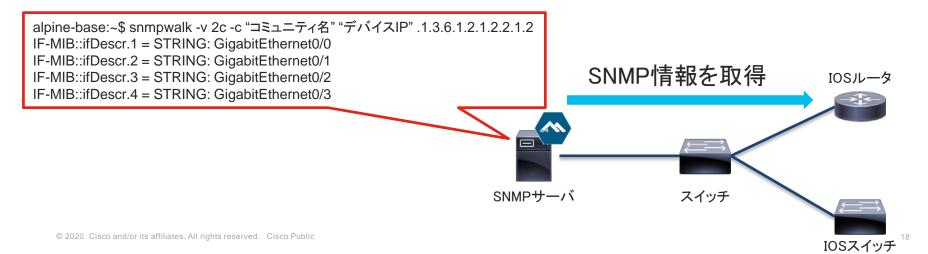
CML仮想ノード デモンストレーション

- UbunutuでSyslogサーバを構築
 - ・OSPFネイバーDown時にIOSルータからSyslogサーバにSyslogを送信



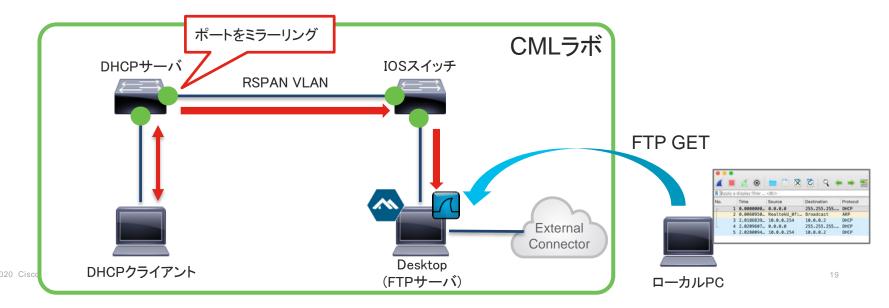
CML仮想ノード デモンストレーション

- ・Alpine Linuxでsnmpwalkを実行し、ルータ/スイッチのSNMP情報を取得
 - ・ インターフェイス情報
 - ホスト名
 - ・SNMPエージェント起動からの経過時間など



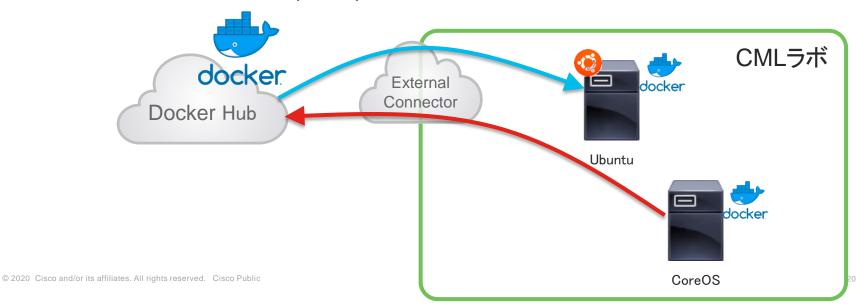
CML仮想ノード デモンストレーション

- ・Alpine DesktopのWireshark機能を使用したデモ
 - 1. DHCPのやり取りをミラーリングし、DesktopのWiresharkでパケットキャプチャ
 - 2. Desktopで取得したパケットキャプチャをローカルPCから取得



CML仮想ノード Docker Hubの活用

- ・Docker HubとCMLラボ内の連携
 - チームでリポジトリを管理・共有
 - ・Docker Hubヘイメージをpush/pull



CML仮想ノード シミュレータ、その他編

ノード	ノード名	説明	バージョン
WAN Emulator	WAN Emulator	・ 実際のWAN回線を擬似的に再現可能な装置	Alpine Linux 3.10
TRex	TRex	Ciscoが提供するオープンソースなトラフィック ジェネレーター	Alpine Linux 3.10
External Connector	External Connector	• CML内ノードを外部ネットワークに接続する際に使用	_

新規仮想ノードの追加例

新規仮想ノードの追加例

・新規仮想ノードを追加する際、下記2つのコンポーネントが必要

YAML形式のノード構成ファイル

- CPU,RAM,ネットワークアダプターなどの情報
- GitHubのCML Communityで 有志がサンプルをアップ(次ページ詳細)





qcow2形式のディスクイメージ

- OSのイメージ
- 公式サイトよりダウンロードが必要



〈参考〉新規仮想ノードの追加例

GitHubの下記参考リンクより有志がサンプルをアップ(7/14時点) ※gcow2イメージは各ベンダー公式サイトよりダウンロードが必要



アプリケーション トラフィック管理製品



アプリケーション トラフィック管理製品







MikroTik クラウドルータ



Catalyst 9800

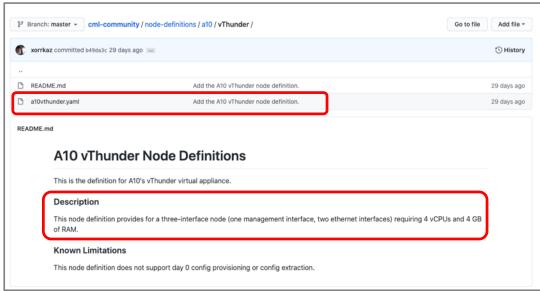
© 2020 Cisco and/or its affiliates, All rights reserved. Cisco Public

- ・手順概要(各種サイトにてダウンロード)
 - 1. A10の公式サイトにてディスクイメージ(qcow)をダウンロード
 - 2. GitHubにてノード構成ファイル(YAML)をダウンロード
- ・手順概要(CML内の作業)
 - 3. CMLにてダウンロードしたノード構成ファイル(YAML)をインポート
 - 4. CMLにてダウンロードしたディスクイメージ(qcow)をアップロード
 - 5. CMLにてインポートした**定義ファイル(YAML)とディスクイメージ(qcow)**を紐付け

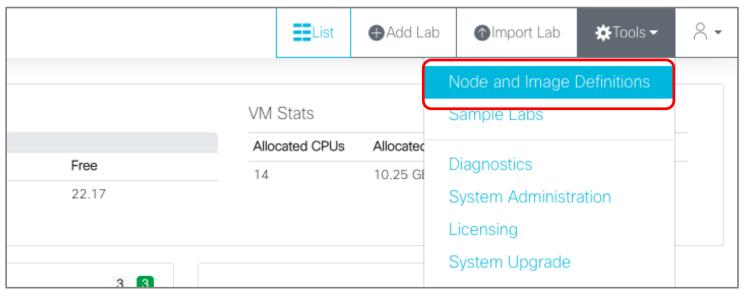
- 1. A10の公式サイトにてディスクイメージ(gcow)をダウンロード
 - ・アカウントを作成し、30日間のフリートライアルライセンスを取得



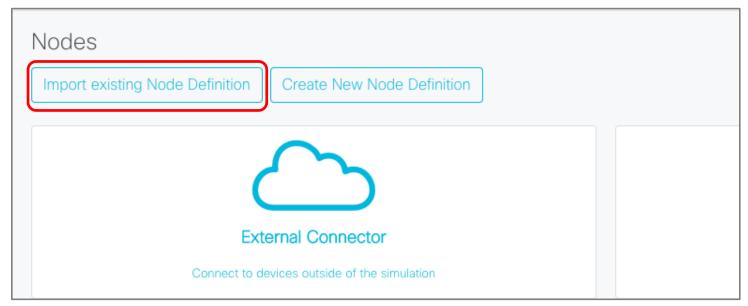
- 2. GitHubにてノード構成ファイル(YAML)をダウンロード
 - vThunderはCPU4コア、メモリ4GB必要



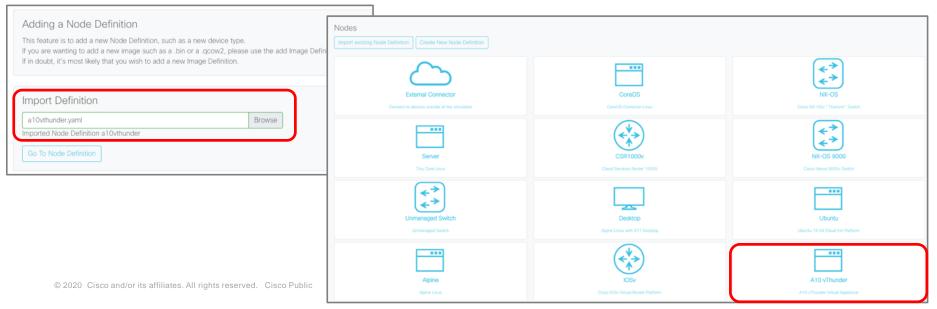
- 3. CMLにてダウンロードしたノード構成ファイル(YAML)をインポート
 - ・ CMLの"Tools" > "Node and Image Definitions"をクリック



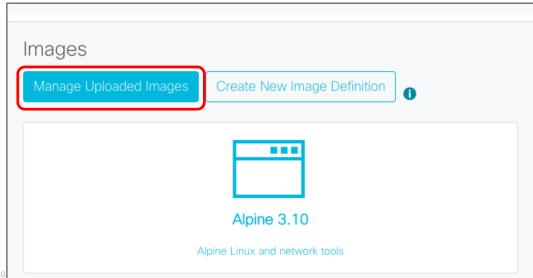
- 3. CMLにてダウンロードしたノード構成ファイル(YAML)をインポート
 - ・ "Nodes"配下の"Import existing Node Definition"をクリック



- 3. CMLにてダウンロードしたノード構成ファイル(YAML)をインポート
 - ・GitHubにてダウンロードしたYAMLファイルをインポートし、 "Browse"ボタンを押すと作成したノードが反映される



- 4. CMLにてダウンロードしたディスクイメージ(qcow)をアップロード
 - "Node and Image Definitions" > "Images" > "Manage Uploaded Images"をクリックし、qcowイメージをアップロード

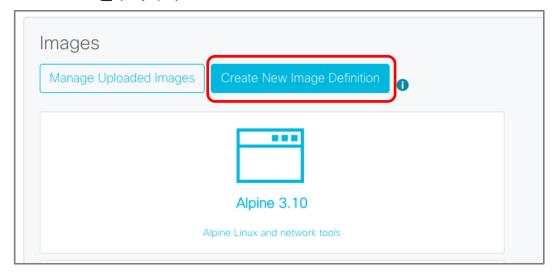


31

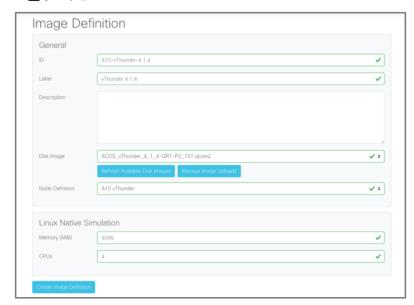
- 4. CMLにてダウンロードしたディスクイメージ(qcow)をアップロード
 - ・ qcowイメージをCMLにアップロード



- 5. CMLにてインポートした定義ファイル(YAML)とディスクイメージ(qcow)を 紐付け
 - "Node and Image Definitions" > "Images" > "Create New Image Definition" をクリック



- 5. CMLにてインポートした定義ファイル(YAML)とディスクイメージ(qcow)を 紐付け
 - GitHub記載の通りCPU4コア、メモリ4GBを入力



- vThunderを起動し、コンソールログイン (ユーザ名:admin、パスワード:a10)※管理インターフェイスの設定、ライセンスの適用方法は今回省略
 - Node Info Connectivity VNC Simulate Console Edit Confia >>> Press 'Enter' to activate this terminal vThunder login: admin Password: Last login: Mon Jun 29 11:47:43 IST 2020 on ttyS0 Last login: Mon Jun 29 11:56:13 on ttyS0 System is ready now. [type ? for help] vThunder(NOLICENSE)>

- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

アジェンダ

ネットワークシミュレーション

- 1. WANエミュレータ
- 2. トラフィックジェネレーター

WANエミュレータ

・帯域や遅延、パケットロス等のパラメータを変更し、実際のWAN回線を 筐体内で再現するノード 例)

- ・品質の良い/悪いWAN回線のネットワークシミュレーション
- ・アプリケーション動作のシミュレーション
- SD-WAN検証など



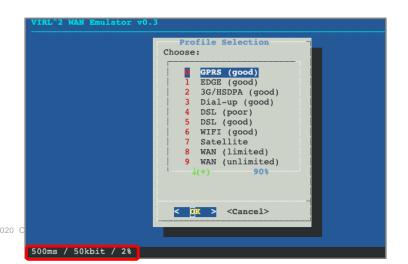
WANエミュレータ

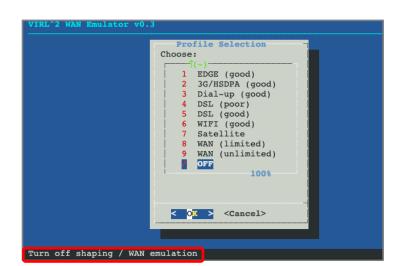
- ・メインメニューのご紹介
 - 1. Select Profile: 予め10種類のプロファイルが定義
 - 2. Port Settings: 手動で"遅延/ジッタ/パケットロス"を設定
 - 3. Current Settings:現在の設定の確認
 - 4. iptraf: WANエミュレータのインターフェイスの統計が表示
 - 5. Shell:シェル画面の表示



〈参考〉WANエミュレータ

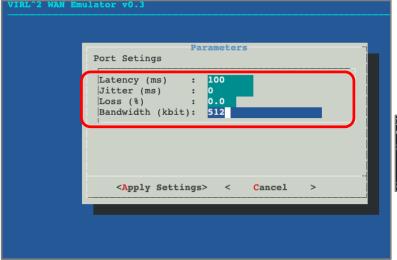
- Select Profile
 - ・画面左下にそのプロファイルの**遅延/帯域/パケットロス**が表示
 - ・10番目の"OFF"プロファイルは遅延などの制御を行わない品質のよい回線を再現
 - ・ジッタを挿入できない、プロファイルを追加、変更、削除はできない





〈参考〉WANエミュレータ

- 2. Port Settings
 - ・初期値は以下の仕様
 - ・遅延: 100ms, ジッタ: 0ms, パケットロス: 0.0%, 帯域: 512kbit
 - ・初期値のまま、R1からR2へping100回実施

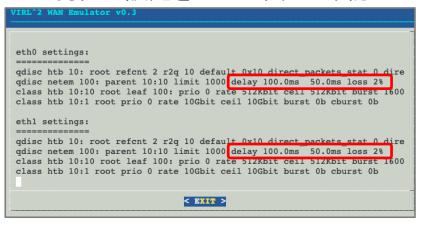




WANエミュレータでは双方向で制御されるため、 結果として約200msの遅延が発生

〈参考〉WANエミュレータ

- 3. Current Settings
 - ・現在の設定をポート単位で確認



- 4. iptraf
 - インターフェイスの統計を表示

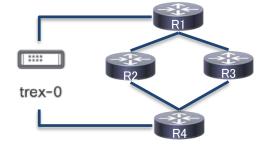
iptraf-ng 1.1.4				
Iface				
lo				0.00 kbps
eth0	116	116		6.15 kbps
eth1	116	116		5.99 kbps
wan0				0.00 kbps

- 5. Shell
 - ・シェル画面の起動

```
alpine-wanem:/# cat /etc/issue
Welcome to Alpine Linux 3.10
Kernel \r on an \m (\l)
alpine-wanem:/#
alpine-wanem:/#
```

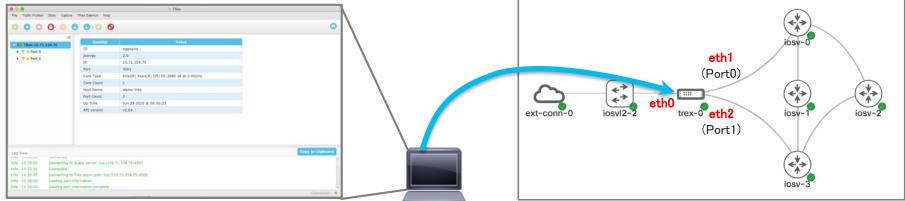
トラフィックジェネレーター TRex

- ・ Ciscoが提供するオープンソースなトラフィックジェネレーター
- ・CML提供のTRexはGUIアプリケーションで管理
- ・大量のトラフィックを生成でき、パケットの細かいパラメータも設定可能
 - ・MACアドレスやIPv4のパラメータ、TCP/UDPのポート番号を設定
 - ・連続的なパケットや一度に大量のパケットの生成
- ・ネットワークフィルタリング検証や、アプリケーション性能検証が可能
 - ・アクセスリストや、ルートマップのフィルタリング



トラフィックジェネレーター TRex

- 1. TRexの概要
- ・TRexには最低2つのインターフェイスが必要でGUIアプリで管理
 - ・ "eth0" → GUI管理インターフェイス
 - ・Windows,Mac等にクライアントソフトをインストールし&アクセスするため、外部接続が必要
 - ・ "eth1" or "eth2" → テスト用インターフェイス

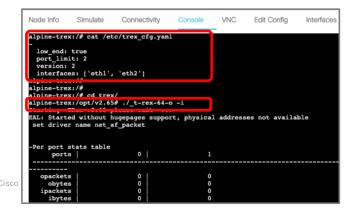


© 2020 Cisco and/or its affiliates. All rights reserved. Cisco Public

クライアントソフトをインストールした端末

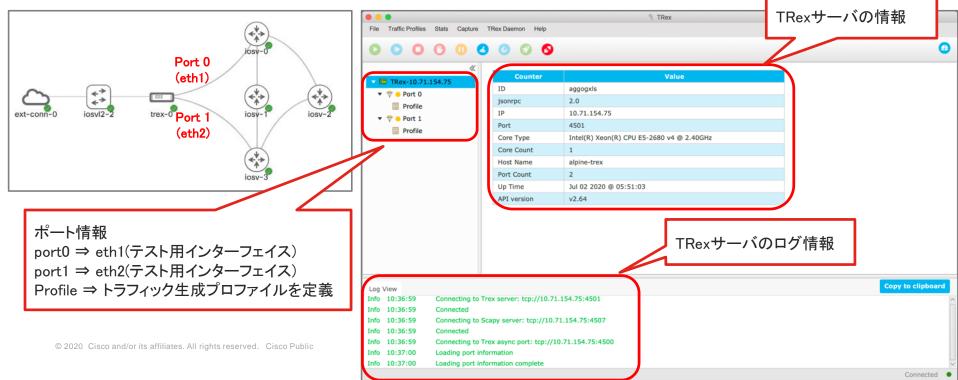
トラフィックジェネレーター TRex

- 2. TRexにアクセスするまでの手順
- TRex起動時、設定ファイルの不備等があるためワークアラウンドとして下記設定が 事前に必要
 - ・etc配下の"trex_cfg.yaml"ファイルの"interfaces"を['eth1', 'eth2']に編集
 - "eth1","eth2"はテスト用インターフェイス
 - ・ trexディレクトリに移動し、"./_t-rex-64-o -i"コマンドでTRexサーバを手動起動



45

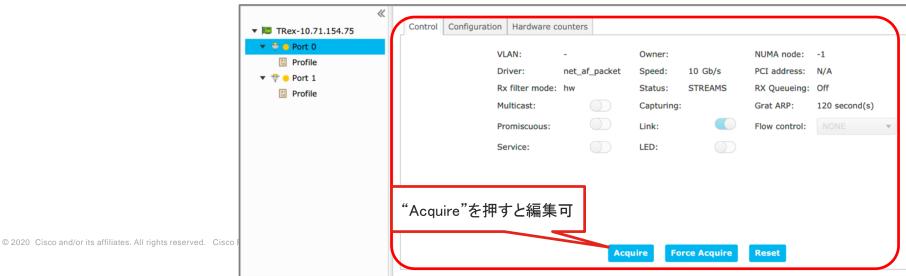
3. TRexの主要なページのご紹介



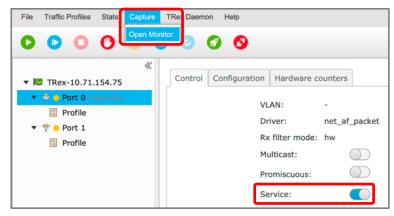
- 3. TRexの主要なページのご紹介
- ・ "Stats" > "Dashboard"でport単位のトラフィック情報が表示

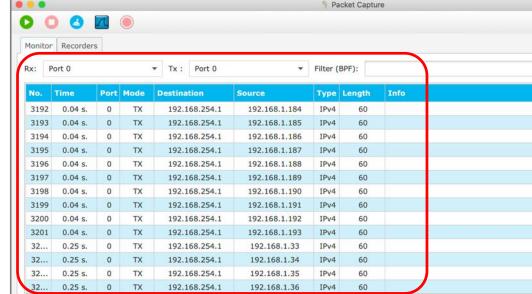


- 3. TRexの主要なページのご紹介
- Portの設定
 - ・ Promiscuous: 自分宛て以外のパケットをすべて処理(管理・監視目的で使用)
 - Service: パケットキャプチャ機能を有効化 ※次ページで解説

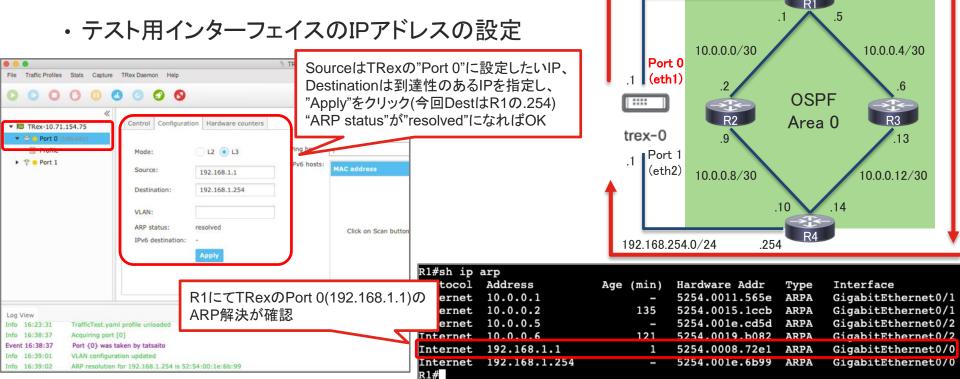


- 3. TRexの主要なページのご紹介
- ・ Serviceにチェックを入れることで"Capture" > "Open Monitor"より、Port単位でパケットキャプチャを取得可能(図は"Port 0"のキャプチャ)



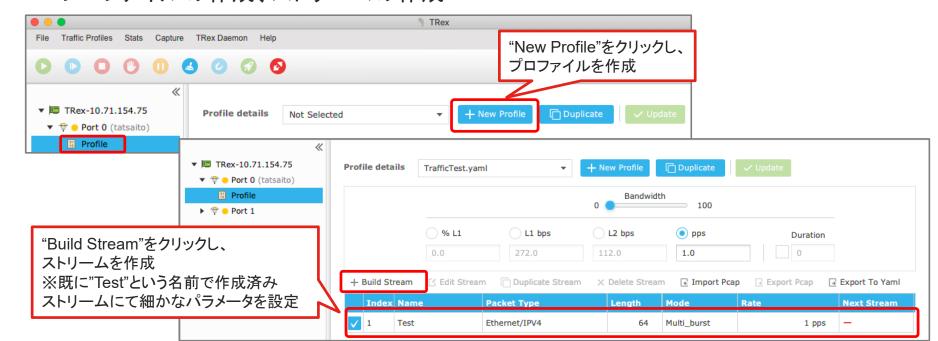


4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順

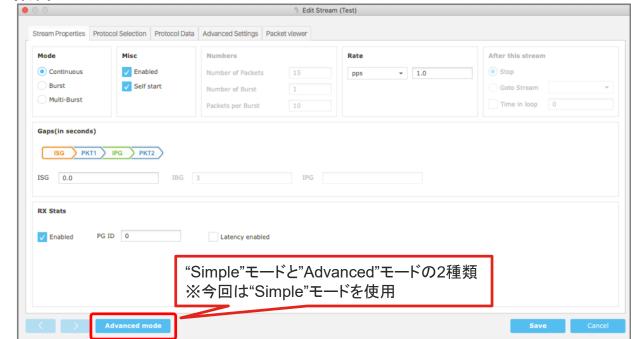


192.168.1.0/24

- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- ・プロファイルの作成、ストリームの作成

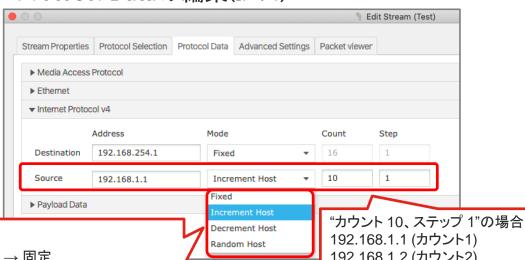


- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- ストリーム編集モードのご紹介

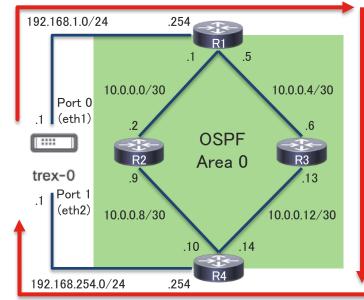


〈参考〉トラフィックジェネレーター

- 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- Protocol Dataの編集(IPv4)



d. Cisco Public





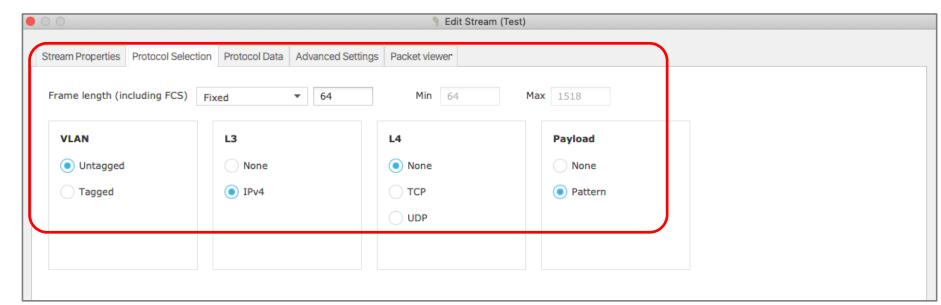
- Fixed → 固定
- Increment Host → ホストの増加
- Decrement Host → ホストの減少
- Random Host → ランダムホスト

192.168.1.1 (カウント1) 192.168.1.2 (カウント2) 192.168.1.10 (カウント10)

192.168.1.1 (カウント1)※以後繰返 🖊

<参考>"カウント 10、ステップ 2"の場合 192.168.1.1 (カウント1) 192.168.1.3 (カウント2) 192.168.1.5 (カウント3) 192.168.1.19 (カウント10)

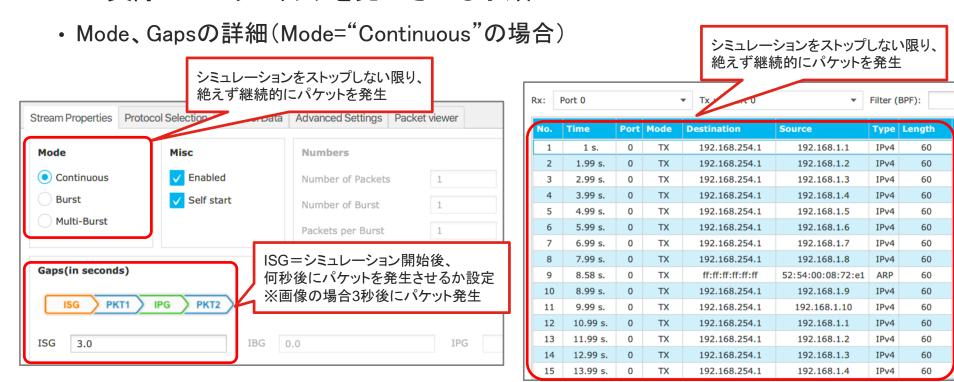
- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- Protocol Sessionの設定
 - パケットの長さや各レイヤーの設定が可能



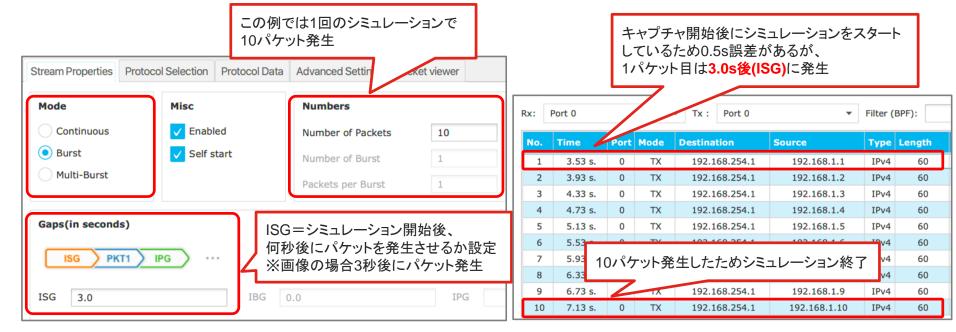
- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- ・Stream Propertiesにて、パケットの発生条件や間隔を主に設定



4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順



- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- ・ Mode、Gapsの詳細(Mode="Burst"の場合)



- 4. 実際にL3トラフィックを発生させる手順
- ・ Mode、Gapsの詳細(Mode="Multi-Burst"の場合)



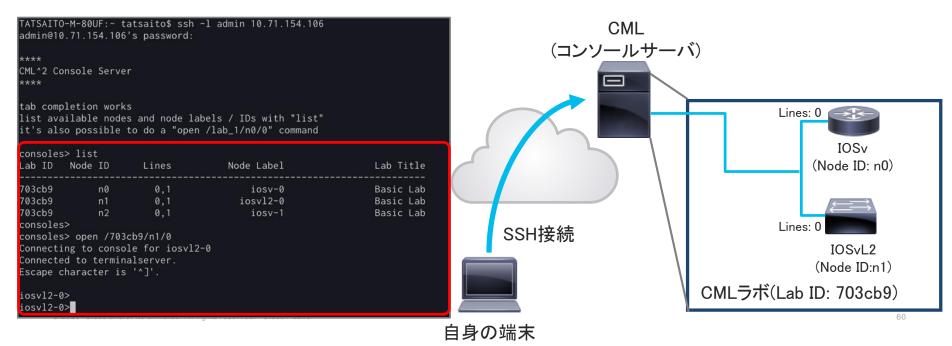


リモートからCML内ノードへの 接続方法

- 1. コンソールサーバ
- 2. ブレイクアウトツール

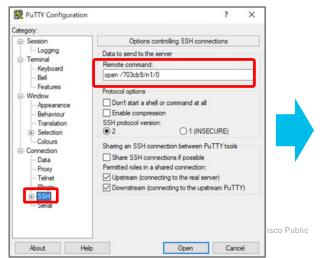
コンソールサーバ

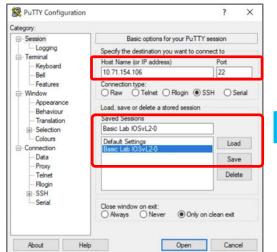
・CML自体がコンソールサーバとして機能しており、SSH経由で接続することでCML内のノードにアクセスが可能



〈参考〉接続の簡素化 Windows編

- ・Windowsの場合、Puttyを使用することでSSHリモートコマンドを入力したセッションの保存が可能になり、2回目以降の接続が簡素化
- 1. SSHコマンド open /"ラボID"/"ノードID"/"ライン番号"を入力
- 2. Host Name、Saved Sessionsにタイトルを入れ保存



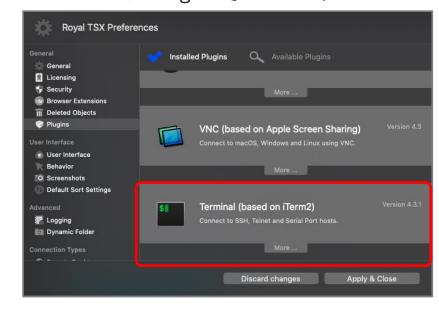




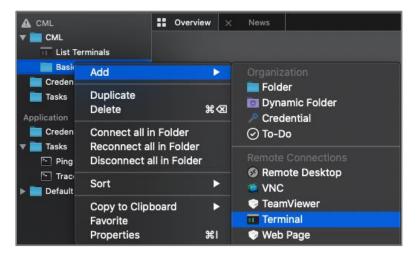
・Macの場合、iTerm2とRoyal TSXを使用することでSSHリモートコマンドを入力したセッションの保存が可能になり、2回目以降の接続が簡素化

1. Royal TSXをインストール後、Preferences > General > PluginsでiTerm2の

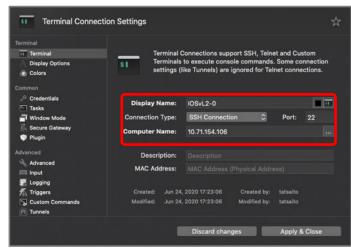
プラグインをインストール



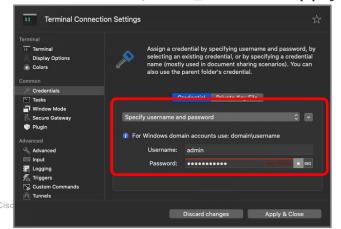
- ・Macの場合、iTerm2とRoyal TSXを使用することでSSHリモートコマンドを入力したセッションの保存が可能になり、2回目以降の接続が簡素化
- 2. 任意のフォルダを作成 > "Add"> "Remote Connections" > "Terminal"をクリック
- 3. Terminalの"Display Name", "Computer Name(CMLのアドレス)"を入力



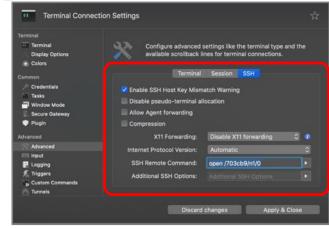




- ・Macの場合、iTerm2とRoyal TSXを使用することでSSHリモートコマンドを入力したセッションの保存が可能になり、2回目以降の接続が簡素化
- 4. Commonの"Credentials"でCMLのログイン情報を入力
- 5. Advancedの"SSH"の"SSH Remote Command"欄にopen /"ラボID"/"ノード ID"/"ライン番号を入力し"Apply & Close"をクリック







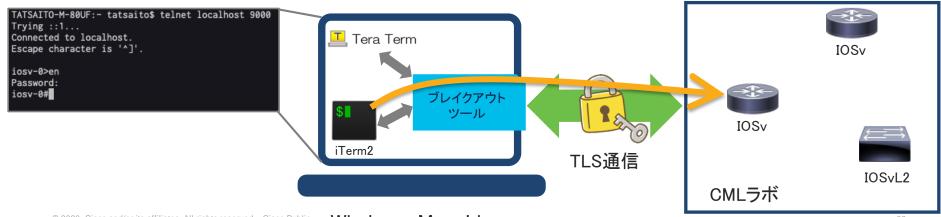
- ・Macの場合、iTerm2とRoyal TSXを使用することでSSHリモートコマンドを入力したセッションの保存が可能になり、2回目以降の接続が簡素化
- 6. 作成したTerminalをダブルクリックすると接続が可能
- ※Royal TSXは10コネクション以上はライセンスが必要なため注意



© 2020 Cisco and/or its affiliates. All rights reserved. Cisco Public

ブレイクアウトツール

- ・クライアントにブレイクアウトツールをインストールすることでクライアントを プロキシとしてCMLラボのノードにコンソール接続が可能になる機能
- CML内のノードへのアクセスがすべてTLS通信
- ・例) localhost: 9000にTelnet接続が可能

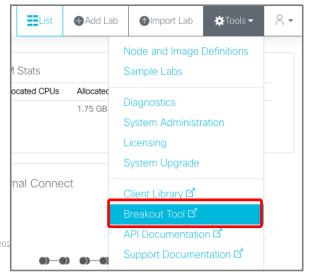


ブレイクアウトツール

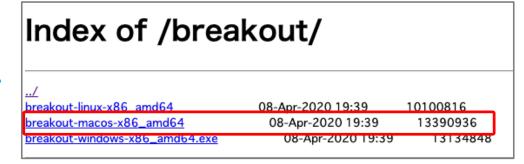
• 設定手順

- 1. CMLの"Breakout Tool"ページよりブレイクアウトツールのファイルをダウンロード
- 2. ブレイクアウトツールファイルを実行可能な権限に変更(Mac,Linuxのみ)
- 3. ブレイクアウトツールのセキュリティのポップアップの確認(Macのみ)
- 4. ターミナルにてブレイクアウトツールの起動
- 5. ブラウザにてブレイクアウトツールの各種設定
 - CMLサーバのアドレスの設定
 - CMLサーバログイン時のクレデンシャルの設定
 - ブレイクアウトツールで接続するラボの有効化
- 6. ブレイクアウトツールの終了

- 1. CMLの"Breakout Tool"ページよりブレイクアウトツールをダウンロード
 - ・ CML右上の"Tools">"Breakout Tool"をクリック
 - ・ CML2 Breakoutページ下の"breakout-macos-x86_amd64"をクリックし ブレイクアウトツールをダウンロード







- 2. ブレイクアウトツールのファイルを実行可能な権限に変更(Mac,Linuxのみ)
 - MacやLinuxの場合、ダウンロードしたバイナリファイルを実行する前に 実行可能な権限に変更

```
TATSAITO-M-80UF:~ tatsaito$ cd Downloads/
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$ ls -alh | grep breakout-macos-x86_amd64
-rw-r--r-@ 1 tatsaito staff 13M 6 24 19:25 breakout-macos-x86_amd64
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$ chmod u+x breakout-macos-x86_amd64
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$ ls -alh | grep breakout-macos-x86_amd64
-rwxr--r-@ 1 tatsaito staff 13M 6 24 19:25 breakout-macos-x86_amd64
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$
```

- 3. ブレイクアウトツールのセキュリティポップアップの確認(Macのみ)
 - ・ブレイクアウトツールをiTerm等のターミナルで開くとセキュリティのポップアップが 表示されるが問題ないので開くをクリック
 - ・一度ターミナル画面が開き、しばらくすると閉じてしまうが問題なし



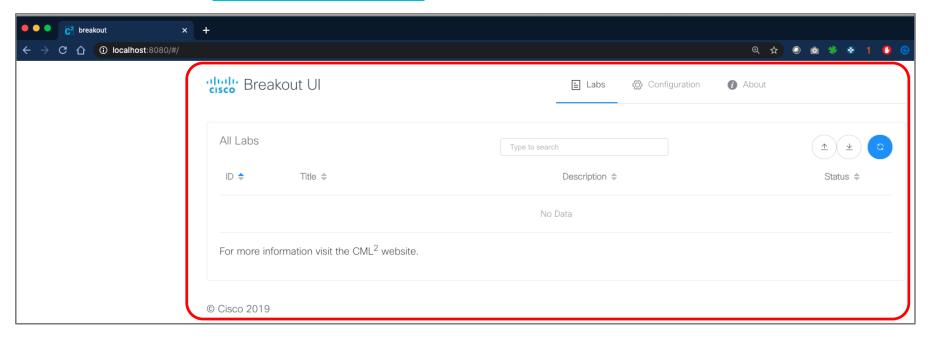




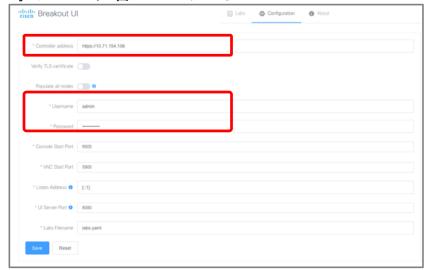
- 4. ターミナルにてブレイクアウトツールの起動
 - ターミナルにてブレイクアウトツールのフォルダに移動し、"./breakout-macos-x86_amd64 ui"を実行http://[::1]:8080にアクセスするよう表示されればOK

```
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$ ./breakout-macos-x86_amd64 ui
Starting up...
W0624 19:38:42.453251 89269 run.go:238] open labs.yaml: no such file or directory
Running... Serving UI/API on http://[::1]:8080, Ctrl-C to stop.
```

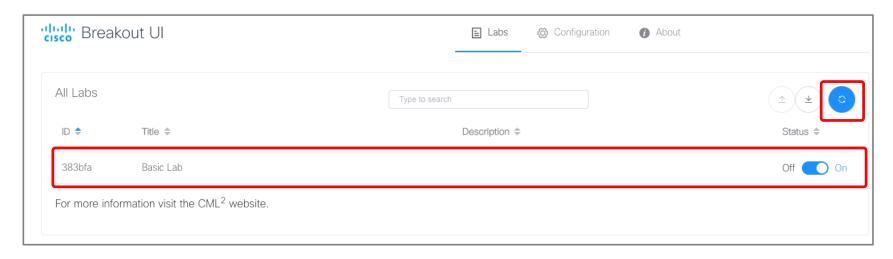
- 5. ブラウザにてブレイクアウトツールの各種設定
 - ・ブラウザにてhttp://localhost:8080にアクセスするとブレイクアウトUI画面が表示



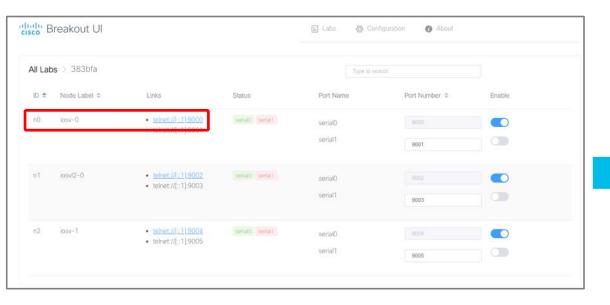
- 5. ブラウザにてブレイクアウトツールの各種設定
 - ・ "Configuration"タブをクリックし下記項目を入力し、保存
 - Controller Address: CMLのIPアドレス
 - ・Username/Password: CMLブラウザログイン時のユーザ名/パスワード



- 5. ブラウザにてブレイクアウトツールの各種設定
 - ・ "Labs"タブに戻り右上の更新マークを押すと現在稼働しているラボー覧が表示 ステータスが"OFF"になっているため、"ON"にする



- 5. ブラウザにてブレイクアウトツールの各種設定
 - ・接続したいラボをクリックすると、ノードー覧が表示
 - ・ノードのリンクをクリックするとコンソール接続が可能





- 6. ブレイクアウトツールの終了
 - ・ブレイクアウトツール終了の際は、ターミナルにて"ctrl + c"を入力

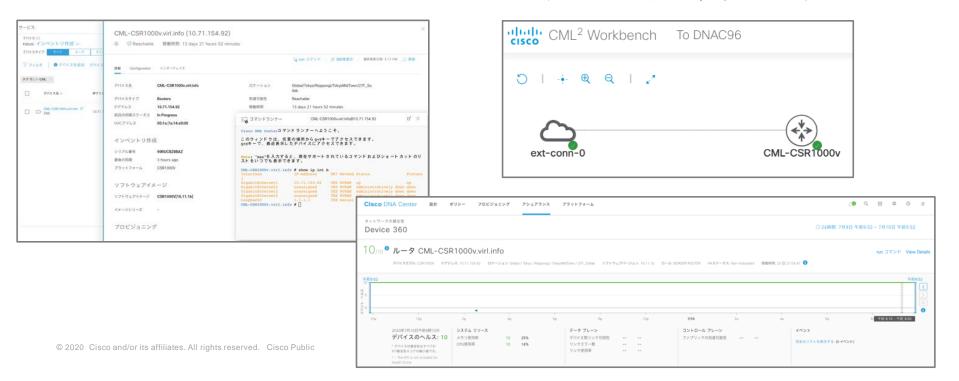
```
2020/06/24 19:50:03 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000021] "POST http://localhost:8080/api/co
nfig HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 2B in 1.560794ms
get active VNC keys from controller...
get simplified node definitions from controller...
get active console keys from controller...
get all the labs from controller...
get all the nodes for the labs from controller...
get nodes for lab 383bfa from controller...
2020/06/24 19:50:47 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000022] "GET http://localhost:8080/api/ref
resh HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 2B in 795.151436ms
2020/06/24 19:50:47 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000023] "GET http://localhost:8080/api/lis
t HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 682B in 93.242μs
2020/06/24 19:52:02 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000024] "POST http://localhost:8080/api/li
st HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 76B in 283.345μs
2020/06/24 19:52:02 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000025] "PUT http://localhost:8080/api/sta
rt/383bfa HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 76B in 96.908236ms
2020/06/24 19:52:02 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000026] "GET http://localhost:8080/api/lis
t HTTP/1.1" from [::1]:58545 - 200 702B in 60.393µs
2020/06/24 19:53:49 [TATSAITO-M-80UF/Ff5JbfZYaA-000027] "GET http://localhost:8080/api/lis
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$
TATSAITO-M-80UF:Downloads tatsaito$
```

- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 4 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

アジェンダ

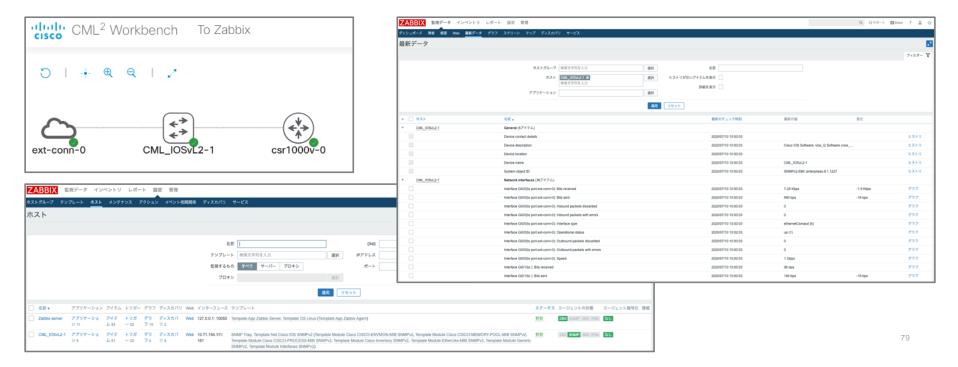
Cisco DNA Centerでの活用

・CMLのラボごとにCisco DNA Centerで自動化や分析の検証が可能



Zabbixでの活用

・CMLラボを使用しSNMPの監視やトラップの検証が可能



- 1 前回のおさらい
- 2 仮想ノードのご紹介 新規仮想ノードの追加例
- 3 ネットワークシミュレーションツール リモートからCML内ノードへの接続方法
 - 外部アプリケーションと組み合わせた CMLの活用
- 5 資格試験での活用方法

アジェンダ

某シスコ社員からのコメント



ラーニングネットワークで公開している"勉強法"にも記述してますが、CCIE 受験にあたっては本番環境により近い構成を組んでの勉強が効果的です。

私は初回受験時に構成を覚えて、出来るだけ同じような環境を作り、そこで実際の動作を学んで次の 受験に挑むというスタイルを取りました。

その際に苦労したのが、実機を揃えて、配線して、IOSを統一してと言った物理的な作業でした。 環境を用意するだけで数日要したものです。

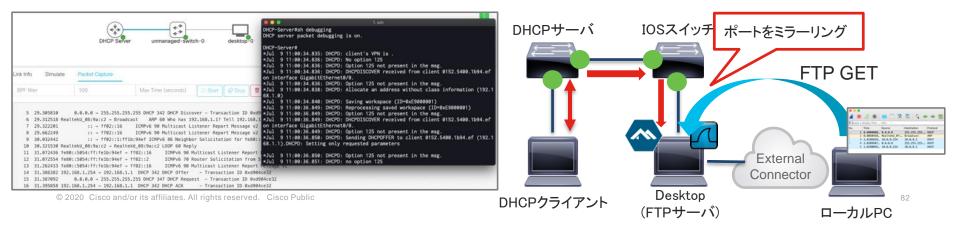
ですが、このCMLを使えば、これらの作業が数十分で済みます!

まさにCCIEを目指す方にとっては必須のツールではないかと考えます。

CCIE の勉強法 第1回「合格までに要する勉強時間」 https://learningnetwork.cisco.com/s/article/ccie-1-x

資格試験での活用方法

- ・各プロトコルの制御パケットやパケットウォークを正しく理解することが重要例)DHCPやダイナミックルーティング、認証などの制御パケット
 - ・ルータやスイッチのデバックコマンド、CMLのパケットキャプチャ機能を使用
 - ・ミラーリングやDesktopのWireshark、外部接続機能を使用



資格試験での活用方法

- ・CMLラボのインポート/エクスポート機能(YAML)を活用し、ラボの共有
 - 勉強時間の有効活用
 - ・ラボファイル(YAML)のファイルを変更し、トラブルシュートの練習に活用

YAMLファイルの中身は

- ラボの名前
- ノードのIDや座標(XY軸)
- show run
- リンクの状態

例)

- 対抗のIPアドレスを変更
- OSPFのネットワークタイプ変更
- EIGRPのK値を変更
- ACL、NATの編集など

```
Basic Lab (1).yaml
timestamp: 1594019567.669568
title: Basic Lab
version: 0.0.3
- id: n0
  label: iosv-0
  node definition: iosv
  x: -700
   Building configuration...
    Current configuration: 3716 bytes
    ! Last configuration change at 06:46:19 UTC Mon Jul 6 2020
    version 15.8
    service timestamps debug datetime msec
    service timestamps log datetime msec
    no service password-encryption
    hostname iosv-0
```

まとめ

- ・今回は10個の機能や使い方についてご紹介しました。
 - 1. ネットワーク機器のSyslog情報をSyslogサーバで受信
 - 2. SNMPマネージャコマンドを使用し情報を取得
 - 3. DesktopのWiresharkでパケットキャプチャを実施
 - 4. DockerHubの活用
 - 5. 新規仮想ノードの追加例
 - 6. WANエミュレータのご紹介
 - 7. TRexのご紹介
 - 8. コンソールサーバ、ブレイクアウトツールの使い方
 - 9. 外部アプリケーションと組み合わせたCMLの活用
 - 10. ラボ構成のインポート/エクスポート(YAML)

CMLは様々な使い方が可能なのでぜひご活用ください!!

参考リンク

・ CMLご紹介ページ https://developer.cisco.com/modeling-labs/

・ CMLのドキュメント一覧ページ https://developer.cisco.com/docs/modeling-labs/

• CML-Pのコミュニティサイト
https://learningnetwork.cisco.com/s/topic/0TO3i00000094ZjGAI/cisco-modeling-labs-personal-community

GitHub 新規仮想ノード定義ファイルー覧ページ
 https://github.com/CiscoDevNet/cml-community/tree/master/node-definitions

TRex GUIクライアントソフトダウンロードページ
 https://github.com/cisco-system-traffic-generator/trex-stateless-gui/releases

Trexサーバ手動起動の設定ページ
 https://learningnetwork.cisco.com/s/feed/0D53i00000U2p7sCAB

Cisco Modeling Labsを使ってネットワークを学ぼう!

- 2020年7月7日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (基礎編)
 - CML とは何か、ユースケースや基本機能、ラボ構築など、デモを交えながらご紹介します。
- 2020年7月14日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (応用編)
 - CMLの様々な活用方法、資格試験での活用方法をデモを交えCCIEホルダーがご紹介します
- 2020年7月28日(火) Cisco Modeling Labs (CML)を使ってネットワークを学ぼう! (DevNet編)
 - CMLのAPI・プログラマビリティを用いたネットワーク自動化の観点でCMLをご紹介します https://learningnetwork.cisco.com/s/article/jp-webinar-cml03

cisco